

令和6年度(2024年度) 学校評価総括表【伊丹市立鴻池小学校】

教育目標			ひとみ輝き 笑顔あふれる 鴻池小学校					
重点目標			○確かな学力の育成 ○豊かな人間性・社会性の育成 ○たくましい心身の育成					
主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	○「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善 ○基礎的、基本的な知識・技能の定着 ○学級を基盤とした児童理解と学級活動の充実 ○読書活動の充実	・児童の実態に応じた授業づくりの実施 ・国語・算数の基礎的、基本的な知識・技能の定着に向けた朝学習の質の向上 ・計算力の定着を図るため、各学年ごとで定期的に計算確認テスト、4年～6年は標準学力検査CRTの実施。 ・学級力アンケートの全学級実施とその活用の工夫	・教員アンケートから「授業改善に努めている」について90%以上を占める。 ・児童および保護者アンケートから朝学習や宿題等に関する達成度について90%以上を占める。 ・計算確認テストや単元テスト等の結果を通して、児童一人一人への個別指導や学年指導等に生かす。 ・各学級で年間6回の学級力アンケートを実施し、それを生かした学級経営を行う。	B	・教員アンケートの結果(100%)に示されるように、児童の実態に即した授業改善を行うことができた。 ・基礎的、基本的な知識・技能の定着に向けた朝学習及び宿題等を行うことができた。(児童及び保護者共に目標値を上回っている。) ・各学年で計算確認テストを実施し、その結果から児童の実態を把握することができた。また4～6年CRTテストの結果を一人一人の課題解決に生かすことができた。 ・2～6年生の各学級において年間5回の学級力アンケートを実施し、それを生かした学級経営を各担任が意識して行うことができた。児童アンケートからは本実践がよりよい学級づくりに生かすことができると約85%の回答が得られた。 ・朝読書を週一回行うように意識して取り組んでいる。 ・委員会活動のイベントの企画(プレゼント企画やポイントカードの導入)やPTAの取組(読書ボランティアの読み聞かせ活動)の実施によって読書に対する意識向上を図ることができた。 ・児童アンケートでは自ら読書に親しもうとしている児童が約80%を占めている。	・引き続き児童の実態を把握し、それに 応じた授業づくりを行っていく。 ・保護者アンケートで自主学習の項目 における達成度が約6割と低いこと から、家庭学習の取り組みを各クラス で見える化する等の工夫を行っていく。 ・引き続き計算力の向上を図るために 計算確認テストを継続し児童の実態把握 を行っていく必要がある。また、CRT テストを生かした個別指導の取り組み の改善も行っていく。 ・引き続き学級力アンケートを生かした 児童の主体性を育む学級づくりを意識 させていく。	・学校での学習面のサポートはそれぞ れの学力に応じて個別対応であったり 、算数科で少人数学習を取り入れた りしたおり、手厚く感じている。 ・家庭学習の方法や内容のサポートを 学校から発信してもらえたら、助かる家 庭が多いのではないかとと思う。家庭学 習については環境や取組に差があり、 学習していない姿ばかり目についてし まいがちだと感じている。 ・教員が授業改善に取り組んでいること については嬉しく、信頼できると感じて いる。 ・読書ボランティアの活動が行われてい るが、それに加え、地域の自治協議会 も朗読会などで協力が可能である。ま た次年度に検討していったほしい。
		○全ての児童の可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現	・学ぶ意欲を持たせるために課題設定を工夫 ・タブレット等ICT機器の積極的な活用の促進	・児童アンケートから、「教師の授業の工夫」や「児童自ら学ぶ」とする意欲」について90%以上を占める。 ・教員アンケートから、「普段の授業や教育活動、またオンライン授業等で一人一台タブレット端末を活用したか」について90%以上を占める。	A	・児童アンケートでは約96%が「先生が教え方を工夫していた」と回答していた。また、「分かりやすく楽しいか」との問いでも約90%と概ね達成することができた。 ・教員アンケートでは授業や教育活動においてタブレット端末を積極的に使っていると答えた教員が約97%占めており、児童も端末を活用することに慣れてきている。	・誰一人取り残すことのないよう児童の実態把握に努め、児童が「わかる・できる」授業改善や個別支援ができるような学習システムの構築を図っていく。 ・タブレット端末が日常的に活用されていくことで児童のスキルも向上している。今後は児童の実態に応じた効果的な活用方法についてより具体的な研修等を行っていく。	・タブレット端末は子どもたちの学びを深めるための「手段」であることを念頭に置き、ICTを取り入れることだけにとらわれない授業の充実を考えていくことが必要である。

学校教育	児童・生徒の育成	「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	○豊かな心を育てる道徳教育の推進 <
------	----------	--	---

	教職員の資質向上 ①研修等の充実	○校内における授業研究の充実	・言語活動や交流・体験活動を通じた表現力の育成 ・他者との協同により考えを広げ深める学習の充実 ・身につけた力を自覚できる振り返りの時間の確保 ・教員が普段の授業を参観し合える環境づくりの促進	・教員アンケートから「子ども同士が対話をする活動を意識した授業ができましたか？」について90%以上を占める。 ・教員アンケートから「授業で学んだことを日常生活や他教科で生かそうとする子どもを意識した授業ができましたか？」について90%以上を占める。 ・教員アンケートから「授業のめあてに対して振り返りをさせることができましたか。」について90%以上を占める。 ・教員アンケートから「教員に開かれた教室になっている」について90%以上を占める。	A	・全教員が言語活動を意識して授業づくりを行っている。（関連教員アンケート結果は約90%） ・学んだことを他教科や日常生活に活かすことできるように意識して授業づくりをしている。（関連教員アンケート結果は約93%） ・全教員で授業のめあてとそれに対する振り返りを意識した授業を行っている。（関連教員アンケート結果は約93%） ・教員間で参観し合える開かれた教室を意識することができた。（関連教員アンケート結果は約90%）また、OJLを活かした自主研修（授業や学級づくり）も定期的に行うことができた。	・活動あって学び無しとならなぬよう、言語活動や交流、体験活動の質的改善について今後も取り組んでいく。 ・今後も教員が一つの学びが他教科や日常生活でも活かすことができるような学習の充実を図るため、カリキュラム・マネジメントを意識した授業づくりを行っていく。 ・今後もめあてと振り返りを意識した授業づくりを心がけ、児童の意欲や興味関心につなげていけるようにしていく。 ・今後もOJLを活かし、教員の学びが得られる環境や研修等の充実を図っていく。また、普段の授業を参観し合う風土づくりを行っていく。	・校内研究や自主研修会など、教員同士が教育や授業の内容について議論できる環境を大事に活用していったほしい。 ・校内研究会の状況をホームページで紹介してくれているのがよかった。今後もどのような研究が日々行われているのかを紹介してもらえるとよい。 ・めあてと振り返りが達成できなかった場合など、課題についてどのように克服していくかを、今後もしっかり議論を重ねていったほしい。
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	○積極的な情報収集と適切な情報発信の実施	・学校通信やホームページ等を活用した学校教育活動の積極的な情報発信	・保護者アンケートから学校情報の発信における満足度について90%以上を占める。 ・状況に応じて、休校や学級閉鎖等の学校情報を積極的に発信する。	A	・日々の学校の様子や学校関連情報等をホームページでの発信や手紙の配付、メール等の活用を通して積極的に発信を行った。学校情報の発信についての保護者アンケートでは目標満足度の結果を上回ることができた。（約96%の好意的な回答）	・地域に開かれた学校として引き続き学校通信やホームページ等を活用した学校教育活動の積極的な情報発信を継続していく。	・ホームページが毎日更新されていることはとても良い。学校の様子がリアルタイムで把握できる貴重なツールなので、来年度もぜひ継続して更新していったほしい。 ・正門前の掲示板は地域の方が立ち止まってよく見えるところなので、掲示板もよく活用されているのがありがたい。
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	○学校教育目標達成に向けた教職員の意識の徹底 ○非常時における学校の危機的管理体制の充実	・校務分掌における活動内容が学校教育目標達成を目指しているかの見直しを図る。 ・避難訓練の工夫・改善 ・自然災害や緊急時等による休校等における情報の発信 ・安心、安全に過ごせる環境づくりの促進	・教員アンケートから、「自身の校務分掌の活動内容は学校教育目標の具現化を図ることができたか」について90%以上を占める。 ・状況に応じて、適切に対応できるよう、避難訓練を計画的に実施する。 ・状況に応じて、休校や学級閉鎖等の学校情報を発信する。 ・児童にとって安全・安心な場所であるようによりよい環境整備に努める。	A	・教員が学校教育目標を意識し、それを達成するべく各担当で創意工夫を行っている。教員アンケートでは約90%の教員が具現化を図ることができたと回答している。 ・火災や地震を想定した避難訓練や不審者対応訓練では、児童に実際の場面を想像させながら、命を守ることを意識して取り組ませることができた。（関連児童アンケート結果は約94%の好意的な回答） ・不審者対応訓練では、職員の不審者対応方法に課題が見られた。 ・このいけ幼稚園と連携した引き渡し訓練を行うことができた。 ・「安全だより」「こども防災手帳」を発行して家庭と連携して防災に取り組むことができた。 ・学校の状況（学級閉鎖やその他連絡事項）に応じて、GoogleClassroomや手紙等を効果的に活用することができた。（関連保護者アンケート結果は96%が好意的な回答） ・安心・安全に過ごせる環境づくりを心がけることができた。（関連保護者アンケート結果は約98%、関連教員アンケート結果は全員が好意的な回答） ・教員の業務改善に向けた意識を高めることができた。（関連教員アンケート結果は全員が意識が高まっていると回答）	・今後も学校教育目標の達成に向けて教員一人一人が意識し、児童の実態に応じた取り組みを意識して行っていく。 ・引き続き真剣に取り組めるような工夫を取り入れ避難訓練を行うとともに、家庭や地域との連携を図る。 ・不審者対応訓練は、来年度は職員研修として行い、不審者対応の方法を見直す。 ・引き続き、GoogleClassroomや手紙等を用いて適宜情報発信を行っていく。 ・月1回の安全点検を引き続き実施し、迅速に危険箇所の把握と修繕を行う。	・非常時のマニュアル化と併行して、予測していない緊急時にどれだけ最善の対応ができるかは、日頃からの訓練の浸透が必要不可欠である。児童の様子を見ながら、様々なシチュエーションを体験させてほしい。 ・教員の働き方改革について、超過勤務の減少や会議の精選など、本校独自の取組が結果につながっている。業務改善員会での意見を次年度につなげ、さらに働きやすい職場づくりに努めてほしい。
		○教職員の適切な働き方の推進	・PDCAサイクルによる業務改善の実施 ・週1回の定時退勤日の設定	・教員アンケートから、「ワークライフバランスの意識の定着」について90%以上を占める。			・今後もさらにワークライフバランスの意識を高め、児童のよりよい学びを保障し安全を守る教育につながることを意識した上で、教育課程や校務分掌の仕事内容の見直し等を図っていく。	

学校関係者評価総括

- ・多くの観点において高評価が出ているのは、教職員、家庭、地域の日頃の取組の成果だと感じている。課題点については次年度にしっかり引き継ぎ、より良い成果が生まれるようにして行ってほしい。
- ・子どもにとって、今過ごしている学校の環境は全てである。保護者も含め、学校としてのルールを守ることを引き続き発信して行ってほしいと感じる。今本校にあるあたたかい雰囲気がいっまでも続けられるよう願っている。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・家庭学習の充実について、保護者や地域のかかわりの向上が求められている。どのようなアプローチができるかを検討していく。また、子どもたち自身に自主学習のメリットを感じさせるような取組も検討していく。
- ・様々な理由から長期欠席となっている児童について、家庭も含めた支援が必要である。関係機関との連携を取りながら対応していく。
- ・読書活動がさらに充実するよう、地域の協力も得ながら様々な取組を検討していく。

自己評価の基準 **A:** 目標を上回った **B:** 目標どおりに達成できた **C:** 目標をやや下回った **D:** 目標を大きく下回った